

まるごと日本語オンライン A2B1 コースの開発

石井容子、宮島知、田中哲哉（国際交流基金関西国際センター）、
魏娜（中国肇慶学院外国語学院）

The Development of Marugoto Japanese Online Course A2B1

Yoko ISHII, Tomo MIYAJIMA, Tetsuya TANAKA,
The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai
Na WEI, School of Foreign Languages of Zhaoqing University

要旨：本稿では、オンラインで学ぶ総合的な日本語学習のコース「まるごと日本語オンライン A2B1 コース」の概要について報告する。本コースは、『まるごと日本のことばと文化 初中級 A2/B1』をオンラインコース化したもので、「きいてはなす」と「よんでかく」の二つの学習コンテンツ、学習サポートコンテンツ、学習を管理するマイページで構成される。ひとつのトピック内で、「聞く」「話す」練習をした後に、関連するメールや記事を「読む」練習をして、学習者も同じように「書く」という流れで4技能の練習が連動し、それを通してA2レベルからB1レベルへの橋渡しとなる力が身に付くことをねらいとしている。

キーワード：オンラインコース、A2B1、自習、サポート、4技能

1. はじめに

国際交流基金関西国際センターでは、日本語学習のプラットフォーム「JFにほんごeラーニング みなと <https://minato-jf.jp/>」において、総合的な日本語学習のコースである「まるごと日本語オンラインコース」を開講している。「まるごと日本語オンラインコース」は、2016年に入門レベルのA1-1コースを開講した後（武田他 2017）、2018年までに初級までの6つのレベルのコースが開発されてきたが、2022年に初中級（A2B1）のコースであるA2B1-1コース、A2B1-2コースの2コース（以下「A2B1コース」）を開講した。

2. A2B1コースの概要

A2B1コースは、コースブック『まるごと 日本のことばと文化 初中級（A2/B1）』をオンラインコース化したものである。コースブックの内容に、目標Can-doに沿ったストーリー動画、表現・文法の解説、書く練習などを加え、オンラインの自習コースでも聞く、話す、読む、書くの4技能をバランスよく学べるように設計している。

コースは、①「きいてはなす」と「よんでかく」の二つの学習コンテンツ、②学習をサポートするコンテンツ、③学習を管理するマイページで構成される。①の学習コンテンツはインタラクティブな活動を多く取り入れており、音声や動画を確認したりクイズに挑戦

したりしながら流れに沿って学習を進める。学習中に疑問があった際には、ことば、表現・文法、漢字、文化の解説などの②学習サポートコンテンツで確認ができ、一人でも学習が進められる。また、③マイページの「学習進捗」や「ポートフォリオ」で学習の過程を確認しながら、自分のペースで学習を進められる。



図 1：A2B1 コース各コンテンツの画面イメージ

3. 学習コンテンツ

学習はトピックごとに「きいてはなす」、「よんでかく」の順に進める。

3.1 「きいてはなす」コンテンツ

「きいてはなす」コンテンツでは、「やりとり」と「はなす」の目標 Can-do を達成するための練習を通して、聞く力、話す力を身に付ける。学習はトピックごとに表 1 の流れで行う。

表 1：「きいてはなす」コンテンツのトピックごとの学習の流れ

1	トピックを知る	動画を視聴してトピックの場面や目標 Can-do を確認する。
2	じゅんぴ (ごい)	トピックの学習で必要になることばを学び練習する。
3	目標 Can-do の学習	各目標 Can-do ごとにステップ 1 から 4 の順に学習する。
	ステップ 1	目標を知る：目標 Can-do や場面を確認する。
	ステップ 2	聞く・気づく：会話などを聞いて内容を理解し表現に気づく
	ステップ 3	話す：会話の流れを確認し、動画を見て話す練習をする
	ステップ 4	Can-do チェック：目標 Can-do ができたか自身で振り返る
4	ことばと文化	ことばと文化に関わる動画を視聴する。

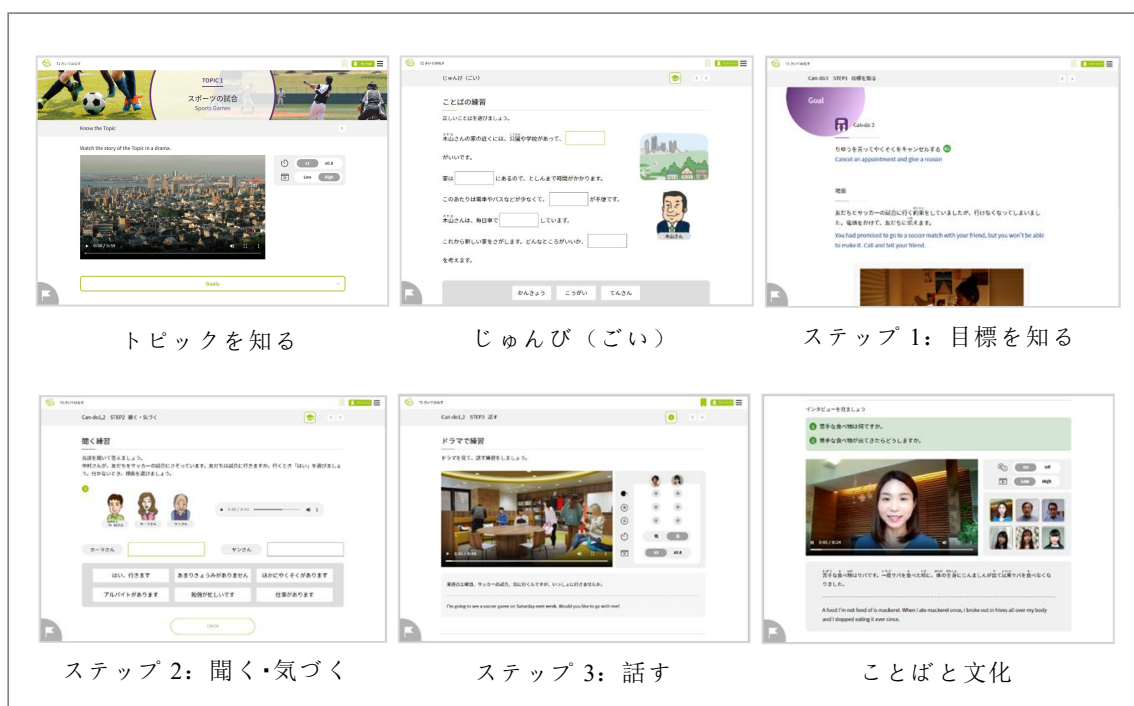


図 2: 「きいてはなす」コンテンツ画面イメージ

3.2 「よんでかく」コンテンツ

「よんでかく」コンテンツでは、「よむ」目標 Can-do を達成するための練習を通して、読む力を身に付ける。また、同 Can-do の学習内で、書く練習も行う。学習はトピックごとに表 2 の流れで行う。

表 2: 「よんでかく」コンテンツのトピックごとの学習の流れ

1	じゅんぴ (漢字)	トピックの漢字のことばを学習する。
2	目標 Can-do の学習	各目標 Can-do ごとにステップ 1 から 5 の順に学習する。
	ステップ 1	目標を知る: 目標 Can-do や場面を確認する。
	ステップ 2	読む: 記事やメールなどを読み、内容を理解する。
	ステップ 3	文法・文型: 読解文中の文法・文型を学び、練習する。
	ステップ 4	書く: メールやウェブへの投稿などを書く練習をする。
	ステップ 5	Can-do チェック: 目標 Can-do ができたか自身で振り返る
3	ふりかえり	トピックの学習全体を振り返る。

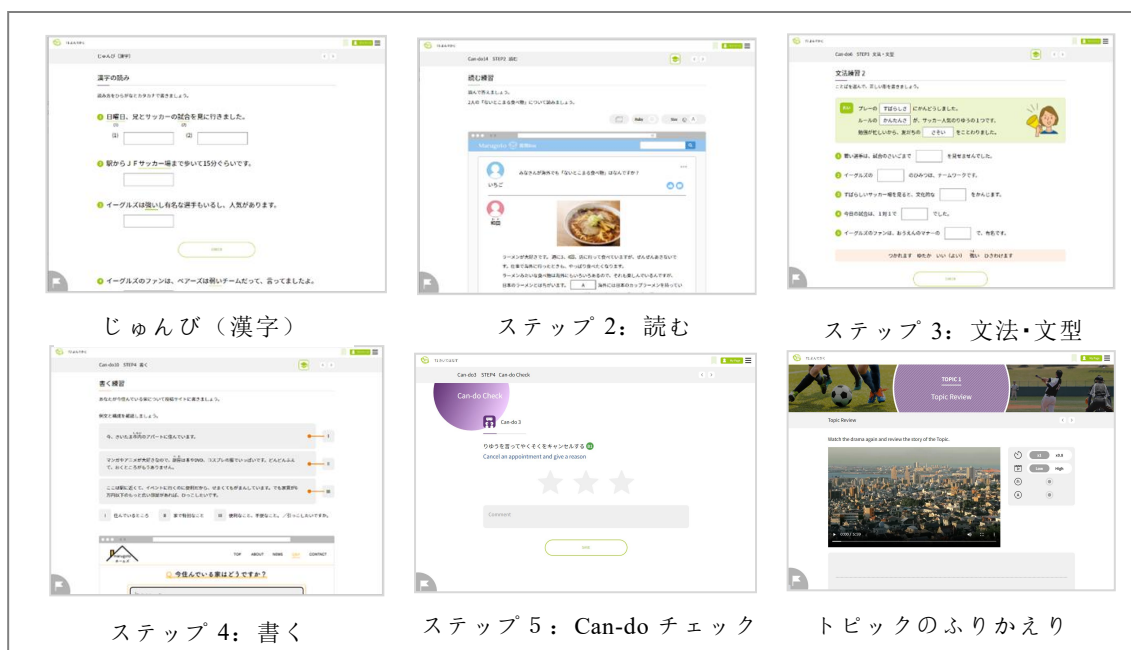


図 3：「よんでかく」コンテンツ画面イメージ

4. A2B1 コースの特徴

A2B1 コースでは、「まるごと日本語オンラインコース」のこれまでのレベルのコースに比べて、「よむ」目標 Can-do が大幅に増えている。「聞く」「話す」練習をした後に、関連するメールやブログを「読む」練習をして、また学習者も同じように「書く」という流れで学習は進む。この一連の流れで 4 技能の練習が連動し、それを通して A2 から B1 レベルへの橋渡しとなる力が身に付くことをねらいとしている。また、ルビのオン・オフ、文字サイズ変更、英訳表示などの機能や、豊富な例文やわかりやすい語彙リストなどを提供することでも初中級レベルの学習をサポートしている。

5. 今後の課題

A2B1 コース受講者からのアンケートは満足度が高く、全体的に好意的なコメントを得ているが、各コンテンツや開発に当たって行った工夫のそれぞれがどのように評価されているのか検証して今後の新たなコース開発へとつなげたい。また A2B1 コースが自習コースとしてだけでなく教室等でどう活用できるか考えていくのも課題のひとつである。

参考文献

- 武田素子、熊野七絵、千葉朋美、笠井陽介、石井容子、前田純子、北口信幸.2017.「「まるごと(A1)日本語オンラインコース」サイトの開発」国際交流基金日本語教育紀要 第13号
- 独立行政法人国際交流基金（編）2015.『まるごと 日本のことばと文化 初中級 (A2/B1) 』東京:三修社